

サービス系技術SWG活動方針(戦略検討WG第4回会合(2007/3/14)資料より抜粋)

技術名(1)FMC環境におけるサービスリソース制御技術

- 検討内容: FMC環境において、NGNならびにインターネットで提供される多種多様なサービスを利用するために必要なアプリケーション、アクセスネットワーク、端末などのリソースの制御を、端末が高速で移動した場合でもセッションを切断することなく、またQoS、セキュリティレベルを損なうことなく、通信事業者の垣根を超えて実現するためのネットワークアーキテクチャならびにプロトコルを開発、標準化する。
- 活動方針: 現在、ITU-Tにおいて、FMCサービスはNGNのRelease 2として要求条件に関する議論が始まっていることから、まずはFMCサービスの定義、分類ならびに要求条件に関する検討を行い、その結果を提案していく。次いで、具体的な方式検討を実施する。また、3GPP、3GPP2、OMAなどの動向も常時確認していく。さらに、IPTVの標準化動向を睨みつつ、放送サービスを含めた融合サービスの検討、標準化提案も進めていく。

技術名(2)プレゼンス・コンテキスト共用システム相互接続技術

- 検討内容: プレゼンスやコンテキスト情報を、異なる事業者間ならびに事業者 - サービスプロバイダ間で必要に応じて共通に利用するための基本技術、総合接続技術の確立および検証を行う。
- 活動方針: 現在、キャリアを中心に携帯電話を利用したプレゼンスのサービス活用の推進が行われており、OMAでの標準化も進んでいる。一方、交換機メーカーなどは内線電話を使ったローカルでのプレゼンスを提供しており、今後センサ技術の普及に伴うモノのプレゼンスなども加わると、3Gエリアと各ローカルエリア間でのプレゼンスの相互連携の必要性が高まってくる。今後のサービス動向を調査すると同時に、具体的なサービスの検討、および標準化を進めていく。また、平行してネットワークにおけるコンテキストの交換についても検討を進めていく。

技術名(3)トランザクション型アプリケーション通信技術

- 検討内容: RFIDによるトレサビリティサービス、センサノードを利用した遠隔監視、e-コマースによるDBトランザクション処理など、トランザクション型のトラフィックをNGNにおいて収容する場合、ショートパケットの増加、リアルタイム性の確保、低パケットロス、通信の即時開始など、品質への要求がさらに厳しくなると考えられる。このため、NGNにおいてトランザクション型の通信を行うアプリケーションからのトランスポートストラタムに対する要求条件やANI、UNIについて検討、標準化する。
- 活動方針: ITU-Tにおいて、RFIDやセンサNWの収容はNGNのRelease 2または3として扱われていることから、まずは要求条件の検討ならびにアーキテクチャの整合性について、JCA-NIDでのNIDの要求条件、モデルの議論を元に確認を行う。トランザクション通信については、トランスポートに対する要求条件を調査し、必要があれば前倒しで提案活動を行っていくとともに、詳細方式の検討を促す。

技術名(4)端末の保守運用プロトコル技術

- 検討内容: NGNに接続されるマルチメディア端末、ホームネットワーク端末において、接続性・利便性の向上の他に、安全性・信頼性の確保を図る為、UNI端末で障害が発生した際に、網から実施する端末の遠隔診断・ソフトウェア更新の他、攻撃脅威への防御、抑止を行う標準的プロトコルを開発する。
- 活動方針: 現在、ITU-T等において、マルチメディアサービスの実施形態の一つとしてホームネットワークが話題となっている。また、その具体的なサービスとして、IPTVの標準化も急速に進んでいる。そこで、本活動では、ホームネットワークにおけるIPTVサービスをモデルとし、その保守運用のための要求条件の整理ならびにハイレベルアーキテクチャ・フレームワークの検討、標準化を進める。なお、現状では、その他の家電製品の個々の議論を行う事は考えていない。また、ITU-T、TISPAN、OMAなどの動向も確認し、本活動で標準化すべき対象、範囲を、別途判断する。